



●許容色で SDGs

化粧品メーカーに勤務していた時、OEM先からの色指定に合わす事は当たり前であり色のモノサシを学んだ時にはこんなに便利な仕組みがあったのか!!と感動したものである。しかし容器は主にプラスチック素材への着色。素材そのものの色や円柱形による色の見え方でピタリと合わすのは至難の業と知る。そこで試作を頼むのだが1本取るにも何十本、時に何百本が廃棄となる。機械の試運転が必要だからだ。又、製品化後も容器としての機能は何ら問題なくとも色素の混ざりが汚点に見えるという理由で廃棄になるケースもあった。プロダクトの色が重要であることは理解している。しかし海ガメの口からプラスチックの破片が取り出される映像を見たりするとやるせない。MADE IN JAPAN に誇りを持って仕事をしてきた。だが、モノづくりの背景には色への実直さ故に生まれるゴミがある事も知ってもらいたい。大海に一石を投じるような事かも知れないが、もし貴方が店頭で多少の色違いや汚点がある商品を手にした時、後ろの物と交換せずに「これは許容色ね」と手に取った商品を買う、そんな SDGs への参加を呼びかけたい。(幹事：水野智子)

●ポーラ美術館 COLORS 展から - 1

今回色彩をテーマに様々な作品が展示されている中で数点取り上げてみます。

まず最初はポスト印象派では、「科学と象徴」というテーマで光の表現を追い求めた画家のジョルジュ・スーラの作品が多数展示されていました。色彩の解説ではシュブールの同時対比の法則や、ニコラス・ルードの光の三原色 RGB は混ざり合うと視神経が刺激され白に見えたり、緑と赤を混ぜると原色よりも明るい黄色に見えてこの理論を加法混色として、分解された色彩が見る人の網膜上で直接的に混ぜ合わされる視覚混合という概念になり、科学的理論を解説していました。

色彩学について知らない人でも、今回の COLORS 展をみることにより、きっかけが出来たと思います。(幹事：田森恭子)



●大辞泉ひろいよみ 80 - こ

紅樹：こうじゅ。紅葉した樹木。オヒルギなど、ヒルギ科の常緑樹。

紅十字：こうじゅうじ。中国の赤十字社。紅十字会。

光周性：こうしゅうせい。生物が日照時間の変化に対して反応する性質。ひかりしゅうせい。

紅熟：こうじゅく。木ノ実などが熟して赤くなること。

黄熟：こうじゅく。おうじゅく。

好色：こうしよく。色事の好きなこと。またそのさま。色好み。美しい容色。また、美人。色好みの女。また、遊女。

好色家：こうしよくか。色事の好きな人。すきもの。

好色漢：こうしよくかん。色事の好きな男。

好色本：こうしよくぼん。元禄期を中心に流行した浮世草子の一。遊里などにおける好色生活を主題としたもの。作者に井原西鶴、西沢一風、江島其磧ら。好色物。好色本。

紅色：こうしよく。くれない色。べに色。顔色の美しいこと。

黄色：こうしよく。きいろ。おうしよく。

黄色新聞：こうしよくしんぶん。イエローペーパー。 *大辞泉：小学館発行国語辞典 (永田泰弘)